

令和6年度の邇摩高校がスタートし、早くも3ヶ月がたちました。今年度もさまざまなかたちで人権に関する学習に取り組んでいきます。今学期のふりかえりをしてみましょう。皆さんの感想も紹介します！ぜひ読んでみて下さい。

4月『人権に関する意識調査』結果より

今年度も新年度の初めに、全校生徒の皆さんを対象に意識調査を実施しました。全ての結果を載せることは紙面の都合でできませんが、考える材料にして下さい。



表 意識調査結果（一部抜粋）

質問		回答	今年度	昨年度
1	あなたは、自分自身の人権が尊重されている（大切にされている）と思いますか。	思う	68.5%	69.1%
		やや思う	26.6%	28.4%
		あまり思わない	4.6%	1.6%
		まったく思わない	0.4%	0.8%
2	あなたは、現在、身近な地域や学校などあなた自身の身の回りで差別があると思いますか。	あると思う	19.1%	18.9%
		ないと思う	30.7%	26.3%
		わからない	50.2%	54.7%
3	（2で「ある」と回答した人） あなた自身の身の回りで特に強く感じる差別はどのようなものですか。 《3つまで》	障がいのある人に対する差別や偏見	20人	19人
		容姿や外見（顔や身体つきなど）、身なりによる差別	19人	24人
		学力・成績や運動能力による差別や人権侵害	12人	9人
		女性に対する差別や偏見	10人	9人
		インターネット・SNS 上での差別や人権侵害	9人	12人

（4月『邇摩高校 人権に関する意識調査』より：回答数は今年度241、昨年度243）

表は全校の結果を示したのですが、「人権が大切にされている」と回答している人の割合が、学年があがるごとに高まる傾向がありました。しかしながら、どの学年にも「人権が大切にされていない」と感じている人が少なからずいます。すべての人が「大切にされている実感」を持つことができる邇摩高校を、今年度もつくっていく必要があります。

5月 全校集会『いじめ予防スキルアップ』

5月21日の全校集会では、「①いじめについてともに学び、共通理解をはかる」こと、「②いじめを生まないクラスや学校をつくるために、自分に出来ることを考え、実践できるようになる」ことをねらいとして、「(1)いじめに気付くためのスキル」および「(2)いじめの芽を大きくしないためのスキル」についてお話をしました。

(1)いじめに気付くためのスキル

○現在のいじめの定義（いじめ防止対策推進法）

“一定の人間関係にあり、心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通して行われるものも含む）であり、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの”

具体的には、「冷やかしゃからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言う」のも、「仲間はずれ、集団による無視」も、「ぶつかったり、遊ぶふりをして叩いたり蹴ったりする」のも、「パソコンやスマホ等で誹謗中傷や嫌なことをする」のも、相手が「心身の苦痛」を感じたら「いじめ」となります。

そして、傷ついた人の心と身体は二度と元通りにすることはできず、その人の生涯にわたって重大な影響をおよぼすことを、私たちは知り、想像できなければなりません。

(2)いじめの芽を大きくしないためのスキル

とはいえ「いじめはよくない」ことは誰でも分かっているはずですが、それなのに、いじめが起きたときにどのようにいじめを止めたら良いかをわかっている人は少ないですし、特に「いじめる側」に立ち向かうのは難しいことです。そこで重要なのは、「いじめる側」でも「いじめられる側」でもない人が、放っておくといじめにつながりかねない『いじめの芽』に気づき、「できること」をすることです。

○「いじめの芽かも？」と思ったら…

- ①仲裁する（止めに入る）
- ②通報する（学校や家庭で大人に伝える）
- ③スイッチャーになる（その場の話題や雰囲気^{ふんいき}を前向きに切り替える人になる）
- ④シェルターになる（困っている人や悩んでいる人をそっと守る、心の避難所^{ひなんじょ}になる）

いじめを予防するためのポイントは、いじめについてきちんと学び、自ら行動できるようになることだと言われています。皆さん一人一人が（もちろん私たち大人も）、いじめの芽を摘む主体ということです。2学期には、そもそもなぜいじめは起きるのか、いじめや差別の心理について、一緒に考えてもらいたいと思っています。クラスや学校を安心・安全なものにできるよう、継続して人権感覚を磨いていきましょう。



5～7月 『人権に関するホームルーム活動』

【1年生】学習テーマ：『多様性の尊重とコミュニケーションの大切さ～形があったよ～』

1年生は、『4つのコーナー』と題したアイスブレイキングで、クラスの中にも多様な意見や価値観が存在していることを確かめたうえで、『形があったよ』と題した活動で、コミュニケーションをとることで難しい課題も克服できること、を体験しました。

- ★ねらい ①多様な価値観を認め合いながら、互いに理解を深めていこうとする意欲を高める。
②他者との協働やコミュニケーションの大切さについて気づき考える。

＜皆さんの感想より＞

☞ 協力することの大切さを実感しました。一人で形をつくるよりも、話して協力しながらしたほうが早く作ることができました。それに協力して取り組む方が楽しく、完成したときの達成感もより感じると思いました。



最初にやった活動では、それぞれの考えが違うこともあったり、逆に一致することもあったりして、人それぞれの考えを共有することが楽しいことだと思えました。異なる考えも尊重できるようになりたいです。

☞ 今日の活動を通して思ったことは、一人では出来ないことでも、複数人で協力したら出来るようになる、スムーズ事を終わらせることが出来ることに気付きました。協力の大切さが分かる活動だったなと思えました。正方形が完成できなかった人も、あきらめずに時間いっぱいまでがんばっていて良いなと思えました。協力することと、あきらめない気持ちが大切だなと思えました。

☞ 「一人でやるほうが楽でしょ！」と途中までは思っていたけど、よく考えたら一人でやるのが楽なのは確かだけど、その時に周りの人に助けってもらえて自分の正方形が完成できたから、ふだんの生活でも、助けってもらったり、助けたりすることが大切なんだなと思えました。

【2年生】学習テーマ：『脱いじめ傍観者～変えられる！？クラスの空気～』

2年生は全校集会のテーマを発展させ、動画を視聴しながらいじめの対応について考えました。

- ★ねらい ①いじめの問題を早期に解決するためには、被害者・加害者以外の生徒がなんらかの行動をとることが重要だということを理解する。
②一人一人がいじめを止める行動をとれるかどうかは、クラス全体の雰囲気関わっていることを理解し、日頃の態度がいじめの予防や解決に結びつくことを理解する。
③特にネットいじめは大人がいじめの状況に気付くことが難しいことをふまえ、一人一人が工夫していじめを止めるための行動をとることができるようになる。

＜皆さんの感想より＞

- ☞ クラスや学校でいじめにあたるようなことを目にした時は、自分は巻き込まれたくないと思ってなかなか声は掛けてあげられないと今までは思っていたけど、今日の動画を見て、私の中で意見が変わりました。そして、クラスの雰囲気もすごく関わってくる所だなと思いました。いじめが悪化していくような雰囲気があるのは本当に嫌だなと思うから、良いクラスにしていきたいです。
- ☞ 書き込む勇気がなくなったり、先生や親に相談するなど、できることはたくさんあると思うから、まずは「今の自分に何ができるのか」、考えて、「行動する」ことが大切だと思いました。
- ☞ いじめの問題が起きたとき、誰よりも一番に声を出して止めるのはすごく勇気がいるだろうし、怖いことだと思うけど、実際に自分にそれができるかもわからないけど、止めに入ってくれた人に、その人がいじめられないよう雰囲気をつくってあげることはできるから、できることから始めていきたい。

【3年生】学習テーマ：『就職差別について知り、考える』

就職試験や進学試験が本格化する3年生は、差別につながりかねない選考があることとその対処方法について学習しました。ワークシートをお返ししますので、しっかり復習をして、この夏休みにも受験対策をしていきましょう。

- ★ねらい ①就職試験や進学試験における差別的選考の実態を学び、差別を見抜く力を養うとともに、自らの人権を守り、差別の解消を目指し毅然と取り組む姿勢や態度を身につける。

＜皆さんの感想より＞

- ☞ 今回の学習を通して、差別的な質問や人権を侵害するような質問をされた時、それを見抜く力が必要だということを知りました。模擬面接をみて「○×△」をつけるのに迷った質問もいくつかあり、自分にはまだ見抜く力が足りないと感じました。社用紙では自分が思っていたよりも不適切な項目が多くありました。今後、面接試験や書類を書くときに、今日学んだことを生かし、勇気を出して適切に、応えようと思いました。
- ☞ もともとこのような問題には関心があって知っていたことも多くありましたが、もし自分が被害を受ける側になっても、自分と次の世代を守るために「断る勇気」というのが必要だと知れたことは大きな気付きでした。



*今年度も『なりすな』と題して人権教育便りを発行します。タイトルには、琴ヶ浜に広がる「鳴り砂」のように、生徒のみなさんが互いに関わり合い、切磋琢磨しながら、個性豊かな音色を響かせることができるように、との願いを込めています。生徒の皆さんはこの便りを持ち帰り、家庭等でも「人権」について語り合うきっかけにしてください。